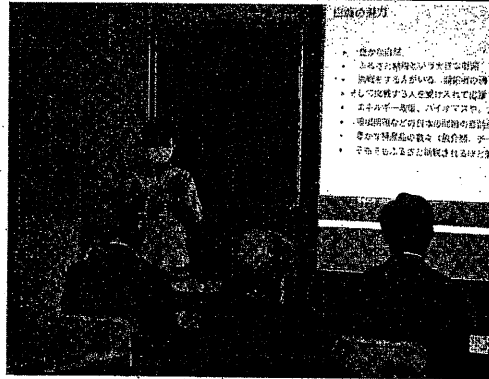


東大生が町の魅力語る 伊藤さんが白糠高で講演

【白糠】町の公営塾「久 日本」の課題と希望と未来
「白糠」(宮城)塾長の
ボランティアスタッフとし
て8月から来町している東
京大学経済学部3年の伊藤
太陽さんが白糠高校で「白
糠に伝えたい」白糠でみた

価値観に触れてもらう「東京
シエクト」として、同大生
や院生に町で教壇生活し
てもらい、異なる文化や価



町の魅力について語る伊藤さん

大学体験活動プログラム」を
2019年から行っている。
伊藤さんは8月21日の来
町以来、同塾で学習サポ
ート活動を行っているほか、
町漁協や茶路めん羊牧場、
掘削専門学校などの見学や
取材活動を通して町の魅力
や課題について学んでいた。
講演は8日に行われ、町
議会議員や教育関係者ら約
25人が参加した。伊藤さん
は町の魅力について「一次
産業を中心に挑戦している
人が多く、その人たちが応
援する人も多い。そういつ
た部分が多額のふるさと納
税につながっていると感じ
る」とし「魚介類やチーズ
など特産品も多く、そもそ
も納税されるほど町に魅力
がある」と説いた。
町の課題については、人
口減少と交通の不便さとし
る一方、「人口減少は事実
だが、10000(昭和5)
年の時とほぼ同じ人口。そ
の時より町は大きく発展し
ているので、悲観しすぎる

ことはない」と強調した。
同校教師の秋間朋子さん
(26)は「自分の考えと似
ている部分もあった。高校
生に町の魅力を伝える大切
さを改めて感じ、とても勉
強になった」と話していた。
(森崎博史)